

看護大通信

68



新潟県立看護大学

助産学助教 菊地美帆

2年前、午後の強い日差しが照りつけるカンボジア農村部のメコン川の渡し船の中で、生まれて間もない赤ちゃんを連れてお母さんに出会いました。気温が30度以上もあるというのに、お母さんは黒い毛糸の帽子とカーディ

ガンという姿で、寒い国から来たのかと思うような、日本人の私から見ると一人だけ妙な格好をしていました。

カンボジアでは助産師の介助するお産は44%（世界子供白書2009）と低く、地域差はあ

りますが、農村部での多くのお産は、国の資格は持っていませんが経験豊富な伝統的産婆さんたちが、産婦さんの自宅に出向き介助しています。カンボジアは、熱帯モンスーン気候に属す暑い国ですが、昔から産後の数日

を温める習慣は他の東南アジアの国でもあるようです。

比較的可ンボジアのお母さんたちは母乳がたくさん出るようですが、母乳がたくさん出るように、薬草を煎じて飲んだり、バナナの花入りスープを

嗜好をしていたのでしょうか。このような産後のお母さんが暖をとり、体を

カンボジアの産後の習慣

間、お母さんが寝ているベッドの下に炭を焚き、体を温める習慣があり、農村部では今でも行われているようです。産後の肥立ちを良くするためのようですが、渡し船の中で出会ったお母さんも、産後の体を気遣い暖かい

たり（これは栄養をつけるためでしょう）といった食習慣が昔からあるようです。

平成20年12月末日現在の新潟県の外国人登録者数は14,662人です。ここ上越の外国人登録数は約1,200人です。

▼カンボジアのメコン川で出会った産後のお母さん



買い物をしている時に外国語を耳にしたり、外国人の方たちに出会うことはありませんか？上越の雪の多さに私もびっくりしましたが、雪の多い上越に来て、困った外国人の方もいたかも知れません。産後の習慣がこんなに違うように、国によって文化や習慣はいろいろ違います。ご近所に住んでいる外国人の人たちと仲良く暮らしていくためにも、お互いの国の文化や習慣を知り、理解しあうことが大切ではないでしょうか。